

## 第7回 健幸登山教室 比良山系 蓬莱山（1,174m）登山

登山日：2021年10月17日（日）

参加者：松下征文(L)、友の会会員（上野陽子・宅間 仁・仲井照雄）計4名

午前8時30分 湖西線JR蓬莱駅に集合する。

午前9時15分 車にて小女郎谷の登山口（標高250m）に移動 今日天気予報は、雲が多く午後から雨が降り、冷たい風が強まるという。昨日までの暖かさとは打って変り、上空に寒気が流れ込むそうだ。

松下(L)は、1/25,000の地図と登山計画書を全員に配り、本日の予定コース（小女郎谷登山口→小女郎谷→小女郎峠→小女郎池→蓬莱山→権現山→小女郎峠→小女郎谷→小女郎谷登山口）の確認をする。いよいよこのスタート地点から、小女郎谷沿いの林道を歩く。30分程で林道は登山道に代わり、暗い檜の樹林帯に入る。曇っているため日が射さず、日中でもやや暗い。

午前10時5分 福谷川の溪流に沿って約50分、高低差300m登ってきた。一時的に晴れ間も見えたが、すぐ曇りが広がる。やがて水が岩を叩きつける音が聞えてきた。薬師ノ滝（標高550m）である。高さ30m位の3段の小さな滝だが、水が勢いよく流れ落ちている。ここで、水分補給のため小休止をする。

休憩後、さらに福谷川に沿って登り続け、堰堤の上を徒渉する。小雨が降りだし、気温が下がっているのを感じる。上着を1枚重ね着をする。時折、琵琶湖方面を振り返るが、雲が広がっており見えない。3回程徒渉をし、踏み跡やテープで進む道を確認する。ガスったりすると迷いやすい所だ。やがて福谷川の流れる音が止まり、源流まで来たことを実感する。

この辺りから、再び檜の樹林帯が続く。直径50cm～70cm位の立派な巨木が点在している。太い幹に圧倒される。麓の檜は人工植林だが、この辺りは天然林という。樹齢100年～200年（推定）の今日まで、比良山系の風雪や台風に耐えて生きてきたのは、畏敬の念すら感じる。

午前11時45分 樹林帯が終わり周囲は低木に変わり、上空の視界が広がる。登山道は岩や石から、砂で固めたような土の塹壕のようだ。幅が狭く歩きにくい。

小女郎峠（標高1,101m）に到着 いきなり風が強くなった。西の京都方面の山地から、小女郎谷を越えて東の琵琶湖に吹く強風が、体に突き刺さる。雨が降り出し、曇りに変わりそうな寒さだ。体が冷えないように、上着と雨具を着こむ。稜線上がこんなに風が強いとは予想していなかった。毎回登山

は、新たに気付かされることがある。登山経験が多くなれば、次に同じ経験の際に落ち着いて行動ができ、誤った判断や怪我が少なくなる。

もし晴天なら琵琶湖が一望され、伊吹山も見えるはずだが残念だ。

午後 0 時 5 分 小女郎ヶ池（標高約 1,050m）に到着 ここに池があることが不思議な気がする。松下(L)より、女郎の悲恋物語の伝説を聞く。

午後 1 時 5 分 小女郎峠（標高 1,101m）に戻り、小女郎谷・権現山・蓬莱山の分岐を、左折し北方向の蓬莱山を目指す。稜線上のなだらかな登山道を歩く。冷たい小雨が続くなか、山頂（1,174m）に到着 1 等三角点のある蓬莱山頂は、平らでテニスコートの半面もありそうな広さである。現在休業中のリフト降り場が近くにあり、関西電力の送電線が通っている。

書物によると、比良山系は西方に丹波山地のなだらかな山並みが続くが、東方は琵琶湖間近で 1,000m 近く切れ落ちていいる。また、東西の圧縮により隆起した山地であるという。

午後 1 時 45 分 晴れたら 360 度遮るものがなく、伊吹山や白山も見えるそうだが、東の空は相変わらず雲の中だ。強風と小雨が続き動いていないと寒く、小女郎峠（標高 1,101m）に戻る。

午後 3 時 10 分 悪天と強風で体が冷えおり権現山に行かず、小女郎峠（標高 1,101m）の分岐から午前登ってきた小女郎谷を下る。やがて、樹林帯に入ると風は止み、薬師ノ滝（標高 550m）に到着 標高が低くなり、汗を掻くため雨具を脱ぐ。登山道は雨で濡れており、特に下りはスリッパしやすい。檜の人工植林帯に入る。

午後 4 時 ひたすら下り続け登山道が終わり、林道に出る。小女郎谷の登山口（標高 250m）に到着

今回は、麓と標高 1,000m の稜線上の天気の違い、つまり強風と寒さを経験した登山であった。まだ山は紅葉には早かったが、季節の変わり目の登山であったと実感できた。